

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である、「克己」の精神に基づいて 「自主・自律」「己を鍛え己を磨き、ともに切磋琢磨」「己を大切に、他を思いやる」人材を育成する。

- 夢を叶える学校として・・・将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、その夢を叶えるべく、充実した誇り高い高校生活をおくれる学校
- 技を磨く学校として・・・普通科総合選択制度のメリットである多彩な魅力ある学習機会を与え、自己の興味関心を発展させて、得意技として磨きをかける学校
- 社会そして世界へ繋がる学校として・・・社会人として必要なコミュニケーション力や語学力を身につけ、国際社会に通用する人材を育成する学校

2 中期的目標

1 学力の育成と授業改善の取り組み

(1) 学力の向上とコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成。

- ア 新学習指導要領に合わせて、エリア指定科目や自由選択科目の抜本的見直しやシラバスの練り直し及びその有効活用を図る。
- イ 習熟度別授業を増やすようにするなど、生徒の多様化に対応した授業形態・内容を工夫し、学ぶ意欲を高め、学力向上に取り組む。
- ウ 教科授業に加えて総合的な学習の時間、学校行事を活用して、コミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成に取り組む。全教科が国際社会・情報社会に対応する人材を育成できるような体制を築く。
- ※普総選アンケートのシラバスに関する肯定率（平成 26 年度 58%）を平成 29 年度には 65%にする。
- ※普総選アンケートのコミュニケーション力に関する肯定率（平成 26 年度 72%）を平成 29 年度には 80%にする。
- ※普総選アンケートのプレゼンテーション力に関する肯定率（平成 26 年度 67%）を平成 29 年度には 75%にする。

(2) 「わかる授業」「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 授業改善のため、研究授業や研修を積極的に行い、その成果を教職員共有のものとして、教育活動に生かせるよう努める。
- イ 調べ学習や探求など課題解決の力を付ける授業を増やす。
- ウ ICT機器の効果的な利用してのビジュアル授業の充実や体験的学習を取り入れた指導内容・指導方法の工夫に努める。
- ※生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率（平成 26 年度 82%）を平成 29 年度には 88%にする。
- ※平成 29 年までに、学校教育自己診断「宿題や課題がよく出される」を 90%に、「予習や復習を欠かせない」を 60%にする。

2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する

(1) 進学実績の向上

- ア 難関私立大、中堅私立大に毎年数十人が合格できるようなエリアの整備改編を行う。
- イ 現在行われている土曜講習だけでなく、土曜自習室の開放を行う。
- ウ 早い段階での進学意識の醸成につとめる。
- エ 平成 27 年度学校経営推進費事業により「アドバンス学習ルーム」を設置し自習や講習の学習環境の充実を図る。
- ※難関 8 私立大（関・関・同・立・京産・近・甲・龍）・中堅私立大（大経・関外・京外・神学院・阪南・摂南・追手門・大産・京女・仏教）の延べ合格者数（平成 26 年度生 132 名）を平成 29 年度に 200 名にする。

(2) キャリアデザインの推進

- ア 総合的な学習の時間と LHR 等を活用して、自分の人生を将来から見つめ、自分の生き方や進路について考えさせる「キャリアデザイン」を完成させる。
- イ 3 年間を見通した体系立てたプログラムに再編成する。地域の人材や施設・各界の本物の協力を仰ぎ、進路先のさらに先にある職業意識をはぐくむ。
- ※学校教育自己診断における進路情報に関する肯定率（平成 26 年度 66%）を平成 29 年度に 70%にする。

3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成

(1) 社会性を育むために生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に取り組む。

- ア 遅刻指導を徹底し、生活リズムの確立を支援する。
- イ 毎日の登下校時、毎時間の開始と終了の挨拶の励行。
- ウ 日常から言葉遣いの指導を徹底し、正しい言葉遣いへの意識向上を図る。
- ※平均総数（平成 26 年度 2591）を平成 29 年度に 2000 にする。

(2) 特別活動・生徒会活動・社会貢献・国際交流を通じて自主・自律の精神を養い、地域社会との繋がりや国際感覚を身につける。

- ア クラブ活動充実のため、入学時のクラブ紹介、体験入部の企画を充実させる。
- イ 豊島高校展（作品展）を地域で開催し、生徒の学習の成果やクラブの発表の機会とする。
- ウ 日常の清掃とは別に清掃活動チームを編成し、校内の特定地域を集中清掃や校外の地域清掃を行う。
- エ 生徒会活動や学校行事の活性化をはかり、生徒が主体的に運営する体制を確立する。
- オ 国際交流を深め、海外の学校との連携を強化して、相互訪問や英語による課題研究発表会を行なう。
- カ 3 年間を見通した人権教育の指導計画を確立して、豊かな心をはぐくむ教育を推進する。
- ※学校教育自己診断の学校行事における肯定率（平成 26 年度 64%）を 3 年後に 70%にする。
- ※全学年の部活動加入率（平成 25 年度 72%）を平成 29 年度に 80%にする。

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けての組織作り。

(1) 分掌間での連携・調整を強化して迅速な課題解決に向け、校内組織を有機的に再編する。

(2) 経営会議・運営委員会・活性化委員会など既存の委員会に加えて、課題解決のため期間限定のプロジェクト委員会を臨機応変に立ち上げる。

(3) 普通科コース設置校への改編にむけて、新設コースの専門的な高度な教育内容を実践し、専門コースの学びを生かした進路実現を図る。普通科の生徒に対しても、満足度の高い進路先の実現に向け、教育内容の充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○満足度：「本校への入学満足度」：肯定率は保護者 88%、生徒 81%で昨年の 75%（生徒）より上がった。「学校が好きで行くのが楽しい」：肯定率は保護者 86%、生徒 75%で昨年とほぼ同じ。</p> <p>○学力向上：「入学後自分は成長した」：肯定率 73%（昨年 75%）「選択授業は様々な興味ある内容のものが用意されている」：肯定率 68%（昨年 70%）、「エリアや選択科目のガイダンスの充実」：肯定率 74%（昨年 74%）「ICT 機器活用の授業」：41%（昨年 57%）と昨年より低い結果となった。使用する教科に偏りがあり、より一層の努力が必要である。</p> <p>○進路・行事・部活動：「進路情報をよく知らせてくれる」：66%（昨年 66%）、「学校行事の肯定率」：59%（昨年 64%）、「部活動」：肯定率 85%（昨年 82%）。「人権意識」、「命の大切さ」を育てる人権教育：昨年より肯定率が 19.3%も上昇した。これは小まめに保護者にメール配信し、参加を呼び掛けた結果であると分析している。</p>	<p>第一回（6 月 12 日）</p> <p>○平成 27 年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの目的をはっきりさせ、工夫と内容を重視する。何を学びどのような力が付くのかを明確にし、内容と実態を合わせられたい。 ・ロジカルコミュニケーション、ロジカルシンキングを早い時期に身に付けさせられたい。 <p>○普通科専門コース制への改編</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツと進学とどちらに重点を置いているのか中学生には見えにくい。進学する生徒のカリキュラムを可視化し、モデルコースを提示されたい。 <p>第二回（10 月 9 日）</p> <p>○授業アンケートにおいて、教員の評価を数値化することは難しいのではないかと。数値化には疑問である。</p> <p>第三回（1 月 27 日）</p> <p>○学校教育自己診断、普総選アンケート、学校経営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（学校教育自己診断の）結果をどのように読み解き、対応して行くのか。 ・「制服がかわいい」ので豊島を選択したというのは質問項目自体がおかしいのでは。 ・（経営計画の）目標数値で達成度を測るのはおかしいのではないかと。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上とコミュニケーション力の育成と授業改善の取り組み	<p>(1) 学力の向上とコミュニケーション力・プレゼンテーション力の育成。 ア エリア指定科目や自由選択科目 イ プレゼンテーション力・コミュニケーション力 (2) 「わかる授業」「課題解決型の授業」の創造に取り組む。 ウ 授業改善の取り組み エ ICT機器の効果的な活用と校内ICTネットワーク構築</p>	<p>ア・エリア指定科目と自由選択科目で、生徒に付ける学びの目標を明確にして、学力向上につなげる。進路実現に向けての講習会を充実する。 イ・授業でプレゼンテーションをする機会を数多く設ける。またホームルーム、総合的な学習の時間を活用して発表会等を企画し、優秀者を表彰する。グローバル人材の育成として英語力向上を図り国際コミュニケーション力向上につとめる。 ウ・本校独自の授業力向上に向けての研修会を実施する。アクティブラーニングの実践に向けて、指導教諭を中心とした授業研究会を立ち上げ、課題解決型授業の実践と研修を実施する。 エ・全教科でICT機器を利用している授業を充実させる。オープンソースのパッケージソフトを使った教育用ICTネットワークを校内に構築し、教育コンテンツを充実させる。</p>	<p>ア・普総選アンケートの選択科目と進路実現に関する肯定率(平成26年度66%)を68%にする。 イ・普総選アンケートのコミュニケーションに関する肯定率(平成26年度72%)を75%にプレゼンテーションに関する肯定率(平成26年67%)を70%にする。1・2年生に外部英語力評価試験を全員受験させ、目標スコアを達成する。 ウ・生徒の授業アンケートのわかりやすい授業の肯定率(平成26年度83%)を85%に。普通科普総選アンケートの自分で考える力の肯定率(平成26年度75%)を80%にする。 エ・パッケージソフトを使った電子媒体の課題の提出率を紙媒体のそれと比較する。 オ・パッケージソフトのサーバーにアップする教科を初年度3教科以上とする。 カ・授業以外の学習時間を平日18分から30分近づける。</p>	<p>ア・普総選アンケートの選択科目と進路実現に関する肯定率は67%で、前年を上回った。(△) イ・普総選アンケートのコミュニケーションに関する肯定率は72%、プレゼンテーションに関する肯定率は56%であり、特に後者は目標値には届かず下がる結果になった。(△) 1・2年生の外部英語評価試験:300点以上は88.2%から84%にダウンしたが2年生は300点以上が87%から89%に更に上昇した。ここから先に伸ばす努力が必要。(○) ウ・生徒の授業アンケートの分かりやすい授業の肯定率83%であった。(○) 普総選アンケートの自分で考える力の肯定率は74%であった(△) ※学校教育自己診断において「宿題や課題がよく出される」の肯定率は70%であった。(△) 「予習や復習を欠かせない」の肯定率は34%(△)。 ※の2項目については今後継続努力する。 エ・英語科でタブレット型PCを使った生徒のプレゼンテーションの準備など授業での活用は定着した。他教科ではプロジェクターを使った授業の取組みが一部実施されているが、人数は少なく課題を残す。パッケージソフトのサーバーの構築はほぼ完了しているが、アドバンス学習ルームの整備やLAN工事においてアスベストの検出等があり、工事が遅れ、コンテンツの充実が遅れている。(△) オ・試験的に運用する教材のアップロードする以前の状態にあり運用前の段階である。遅れている。教材の教科数は英、数、情報、理科と3教科準備中(△) カ・平日の3学年平均時間は24分。目標の30分は次年度に継続して取り組む(△)。15分増加の45分を目標に継続努力する。</p>
2 自らの将来を見据え、夢や希望を叶える進路を実現する。	<p>(1) 進学実績の向上に向けての取り組み ア 難関私立8大学に毎年数十人が合格できるようなエリアの充実 イ 進学意識の醸成 (2) キャリアデザイン ウ 職業意識、進路意識の醸成</p>	<p>ア・24年度入学生の「総合アドバンスエリア」のエリア指定科目(2年次、3年次に履修)の教育目標を定め、生徒の進路希望に沿った授業を構築し実践する。 イ・全学年を対象とする大学見学ツアーを夏1回、秋1回実施し、早い段階から大学への進学意識を醸成する。とくに総合アドバンスエリアの生徒には参加を義務付ける。 ウ・総合の時間とホームルームを使っての「豊島キャリアデザイン」3年間の体系立てたプログラムに改変し、高校の出口の更に先にある、将来の自分を設計するキャリア教育の充実を図る。地域の人材や各界の本物の協力を頂き、職業意識の醸成を図る。進路情報についても、保護者も交えた情報提供を綿密に行う。</p>	<p>ア・総合アドバンスエリアの指定科目(4科目)のそれぞれにおいて教育目標を定める。 ・難関8私大・中堅私立大学延べ合格者数(平成26年度生132名)を180名にする。 イ・難関大学8校をはじめ、生徒の進学意識を高める大学見学ツアーを2回4大学以上実施する。 ウ・学校教育自己診断でのHRや総合の時間での進路や適性についての肯定感を(平成26年度77%)を80%にする。 ・キャリアデザインプログラムを3年間の体系を完成する。</p>	<p>ア・昨年の反省を受けて、2・3年英語・数学を中心に目標を定め、生徒の意欲が落ちないように授業を実施。(○) ・平成27年度卒業生は難関8私大・中堅私大の延べ合格者数のべ200名は超える見込み(1末現在)。(◎) イ・7月10日近畿大学約120名7月22日仏教大学、京都産業大学に約40名合計156名参加(◎) ウ・学校教育自己診断の総合の時間での進路や適性についての肯定感は76%(昨年77%)で、目標値に届かず。(△) キャリアデザインプログラムについては、「かたりば」等3年間を体系立てたプログラムを構築。「かたりば」に関しては、「進路選択や将来のイメージが広がった」89%及び「自分の将来に向けて目標設定ができた」95%と肯定感の平均は92%を超えている。(◎)</p>

府立豊島高等学校

<p>3 自主・自律の精神を養い、社会そして世界に繋がる生徒の育成</p>	<p>(1) 生徒の規範意識を高め、通学マナーの向上とあいさつ運動の励行に向けての取組み ア 遅刻指導の徹底 (2) 特別活動や生徒会活動を通じて生徒の帰属意識、愛校心を高める取組み イ クラブ活動充実のための取組み ウ 生徒会活動や学校行事活性化に向けての取組み エ 国際交流を本格的に立ち上げ、海外の学校との連携を強化</p>	<p>ア・遅刻の多い生徒については、期限をきって回数をカウントし、早朝登校や個別指導を徹底して改善をはかる。 イ・新1年生を対象とするクラブオリエンテーションをさらに発展させ、全員に体験入部を実施し、入部率の向上をはかる。 ・豊中市などの地域社会と連携して地域行事や小中学生のスポーツイベントにクラブ生徒を派遣し、豊島高校展など地域に貢献する豊島高校をアピールする。 ウ・生徒会が中心となった中学生向け学校見学会の参画や体育祭・学園祭の運営を通じて、学校への誇りと生徒の自主自律の精神を育てる。 エ・韓国慶南女子高校との姉妹交流を強化する。また今年度より海外短期語学研修を実施し、国際感覚の醸成につとめる。 オ・生徒の個性を大切にし、お互いの多様性を尊重して、いじめの無い学校をめざす。</p>	<p>ア・遅刻総数を(平成26年度2591)を2000にする。 イ・全学年の部活動加入率(平成26年度72%)を75%にする。 ・部活動の地域行事への参加回数(平成26年度はのべ15回)を20回以上にする。 ウ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率(平成26年度63%)を65%にする。 エ・韓国慶南女子高校との相互交流を実施する。オーストラリア Modbury High School での海外短期語学研修を継続事業として定着を図る。 オ・安全で安心な学校づくりの生徒の申し出数を10件以内とする。</p>	<p>ア・遅刻総数は2学期末で1,557回(昨年最終2,591回)。目標の2000回を下回る見込み。(◎) イ・全学年の部活動加入率は73%であった(△) ・ダンス部：昨年同様全国大会出場。準優勝し国際大会の招待状を獲得。吹田市のイベントに参加。軽音楽部：豊中市フェスタ、吹奏楽部：地域演奏会他、介護老人ホームや障がい者作業所での演奏会出場。野球部は地域清掃活動に年間30回参加。(◎) 男子バスケットボール部：地域の中学校の大会「豊島カップ」を実施予定。豊島高校展11月22日に実施。地域住民の方々およそ100名(昨年200名)が本校の作品やエリアでの授業内容など観賞頂く。 ウ・学校教育自己診断の学校行事における肯定率は59%であった。(△) エ・夏季休業中の2週間、オーストラリア アデレードにて短期語学研修実施。1月に韓国慶南女子高校来校、交流会実施。昨年に引き続き慶南女子校生徒全員を1泊であるがホームステイで受け入れることができた。(◎) オ・安心で安全な校づくりアンケートにおいていじめの報告はなし。(○)</p>
---	---	---	--	--